

循環型消費経済とは「造語」ですが、例えば今、君津市生活費需要は1人年間230万円と考えますと、人口およそ9万3千人として試算すれば、2,139億円となります。

仲間である会議所の会員およそ2千百人ですが、その家族、社員を併せて平均5名とすれば、1万人です。単純に1回転需要は230億円であります。

先ず、この230億円を相互活用（仲間中心の購販）して3回転、4回転させたらいくらになるかは簡単であります。今までのように市外に本社がある大型店、専門店での購買ですと1回転で終わってしまいます。

しかし大型店の低価格には小規模店はかなわない！という方もありますが、それは大型店間で「品選び、販売方法（開店時間、陳列、客待ち、PR）」だからかも知れません。商いの基本は、先ず自分で作り、足を運んでご近所、仲間達に買ってもらうことでもあります。従来のスーパー、ストア方式ではなく、ショップ方式へと帰ることが必要でしょう。

ショップ方式とは、自分で作ったもの、自分たちで加工したものを対面販売することです。歩いてPRをし、御用聞きをこまめに行い、出前、配達することです。これからは高齢者社会、歩いて暮らせる街づくりが必ず求められます。

私は転業漁民の一人ですが、私が転業したときには、既存の商店の中に付け入る余地は全くありませんでした。新規に市原に出店した友人の寿司屋さんが、出前専門で成功しているのを見て、私も御用聞き、出前方式を始めて35年になります。

今、我が社の訪問御用聞きは15人、電話御用聞きも10名、合計25名の御用聞きは、毎日一人平均40万円の注文を頂いており、25台の配達専用車が県内全域に毎朝毎夕納入をいたしております。